

Standing on the shoulders of giants (巨人の肩の上に立つ)

# 17歳のための世界と日本の見方

セイゴオ先生の人間文化講義

松岡 正剛・著  
出版社：春秋社  
ISBN：978-4-393-33265-8



「巨人の肩の上に立つ」という表現があります。12世紀の哲学者、ベルナール・ド・シャルトルに由来すると言われており、偉大な先人たちの研究などを巨人にたとえ、現在の研究はその積み重ねの上に構築されて、新しい知が開かれていくことを端的に示した言葉です。

松岡正剛さんは日本文化研究の数多くの本を執筆された一方で読書家としても有名で、2000年からウェブ上で公開する読書案内『千夜千冊』において、これまでなんと古今東西の1850冊もの本を紹介されました。本は知の結晶であり、先人たちが考え調べままとめてくれたおかげで、物事の歴史的なつながりを整理したり、成り立ちを理解したりすることができます。そして今回紹介する本書は、得た知や情報を様々な角度や意味合いからみて、つながり具合を吟味し、また新しい関係性を発見するという、情報を受け取ったその次の考え方の実践的な入門講義を行ってくれています。

桶川市立中央図書館スタッフが  
選んだオススメ本

## 「考える本」

『ブチ哲学』佐藤 雅彦・文と絵

出版社：マガジンハウス ISBN：978-4-8387-1226-7

見開き1ページに1テーマ。かわいいイラストで目からウロコ

『やわらかく、考える。』外山 滋比古・著

出版社：PHP研究所 ISBN：978-4-569-84352-0

柔軟な視点を養うヒントになる150の言葉を集めた名言名句集

『100の思考実験』

—あなたはどこまで考えられるか— ジュリアン・パジーニ・著

出版社：紀伊國屋書店 ISBN：978-4-314-01091-7

様々なテーマからまとめた思考実験が楽しめる1冊！！

『パンセ  
パンセ』

上巻／冥想録 ISBN：4-10-201901-4 パスカル・著

下巻／冥想録 ISBN：4-10-201902-2 出版社：新潮社

「考える草」で有名なパスカルの思考が読める一冊

『脳はみんな病んでいる』

池谷 裕二、中村 うさぎ・著

出版社：新潮社 ISBN：978-4-10-333182-7

脳研究者と作家の脳をめぐる対談。

『人間はだまされる』

—フェイクニュースを見分けるには— 三浦 準司・著

出版社：理論社 ISBN：978-4-652-20216-6

様々な情報があふれている世の中で、正しい情報を見分けることについて考える1冊です

テーマに沿った本を図書館に  
蔵書があるものから  
選んでみました。  
図書館を是非ご利用ください。



## OKEGAWA hon プラス+とは

OKEGAWA hon プラス+イベントスペースでは、OKEGAWA hon プラス+運営協議会（桶川市・株式会社新都市ライフホールディングス・丸善雄松堂株式会社）が主催して博物館、大学、出版社等と連携し、桶川の市民サービス向上のため、子ども向けから大人向けまで幅広い世代を対象とした学びのサポートをしています。

▶OKEGAWA hon プラス+でのイベントの予定についてはこちらをご覧ください▶



おけがわマイン 3F

〒363-0022 埼玉県桶川市若宮1-5-2

OKEGAWA hon プラス+

☎ 048-786-6353 桶川市立中央図書館

発行者：OKEGAWA hon プラス+運営協議会（桶川市・株式会社新都市ライフホールディングス・丸善雄松堂株式会社）  
「2024011」



# OKEGAWA

オケガワホンプラス

# hon プラス+ 通信

No. 28

不定期発行



テーマは

## 考えるための本特集

今回のテーマは、「考えるための本」特集。

地球温暖化や生成AIの急速な進化、フェイクニュースを含む情報拡散など、世界は新たな局面を迎えています。従来のやり方が通用しない時代となり、私たちは他者から正解をもらうのを待つのではなく、自ら問い、自ら考えて答えを出すことを求められていることは間違いありません。

今回ご紹介する本をきっかけに、ちょっと一時スマホ画面から離れて、一緒に考え始めてみませんか。



人任せにせず、自分で考えるために・・・それであなたはどうか考えるのか

## 『考えるとはどういうことか』

0歳から100歳までの哲学入門

梶谷 真司・著

出版社：幻冬舎（幻冬舎新書・刊）

ISBN：978-4-344-98514-8



今回の特集のきっかけになった本です。「その場の空気を読む」、「期待された通りの答えを言う」、「否定されてしまうかもしれないから自分の意見を言うのはやめておく」など皆さん経験ありませんか。なぜ私たちはそうになってしまうのか。この本ではその理由と（確かに！）、私たちが安心して自由に問い、考え、語り、聞く経験をするための哲学対話という方法が紹介されています。とても熱い本です。

・中央図書館に蔵書があります



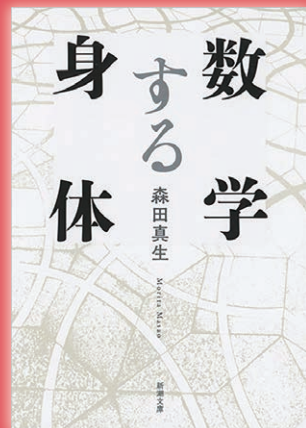
「自然がある」とはどういうことか、あるいは「1とは何か」

## 『数学する身体』

森田 真生・著 出版社：新潮社（新潮文庫・刊）  
ISBN：978-4-10-121366-8

## 『アリになった数学者』

森田 真生・文 出版社：福音館書店  
脇阪 克二・絵 ISBN：978-4-8340-8434-4



・坂田図書館に蔵書があります

数学の世界では、指折り数えられる10という数が特別扱いされたように、いわば身体に沿って“数”という思考の道具は形づくられ、発展していきました。。

その思考の道具たちが揺蕩う数学という環境のなかに自分を預け、まるで身体の一部と感じるまでに一体化して数学的思考の流れになりきる(=「数学する」)ことで見える風景こそが“わかる”ということであるかも知れないという著者の問いには、自然や学問への敬意を感じます。



・中央図書館に蔵書があります

本書は数学者である著書の、学問との出会いとその軌跡を記した本ですが、どこか詩的な美しさにも満ちています。数学という枠にはおさまらない、学んでいくことそのものへの根源的な問いと、身体を貫く生命や自然の喜びを感じさせる言葉たちには、なんとも深い味わいがあります。まずは、小学中級から読める絵本『アリになった数学者』を、大人の方もぜひ手にとってみてください。

若い世代に伝えたい

## 『14歳からの哲学』

考えるための教科書

池田 晶子・著  
出版社：トランスビュー  
ISBN：978-4-901510-14-1



一生懸命、まさに人生をかけて自ら考えてきた著者が、若い世代に向けて熱く語りかけた本。14歳に向けて書いているので、大人にも大変分かりやすくなっています。

著者が語るのは、「読んで、覚える」ことではなく、「考えて、知る」大切さです。知識をいくら沢山収集しても、それはあくまで人の考えであって、自分で考えたことにはならないのです。これは、今特集の他の著者も共通して語っていることなのです。

・中央図書館に蔵書があります

かっこいい？それってみんななりたいの？

## 『COJI-COJI 新装再編版 1』

さくら ももこ・著 出版社：集英社  
(りぼんマスコットコミックス・刊)  
ISBN：978-4-08-867527-5

## 『コジコジにきいてみた。』

モヤモヤ問答集 出版社：ブルーシープ  
さくら ももこ・文 / 絵 ISBN：978-4-908356-36-0



© MOMOKO SAKURA

コジコジという生き物を知っていますか。コジコジという名をもつ宇宙生命体が通っている学校では、人間界で愛されるキャラクターを目指すために勉強するという事になっています。ですが、コジコジは食べて寝て遊ぶことが好きなため、勉強はしません。

コジコジは純真で思いのままに生きます。学校は楽しいので毎日行って、クラスメイトとよく話します。あまりにも「なんで？」を連発するので周りは立ち止

まり、深く考えさせられてしまっています。コジコジの問いや応答は気ままで純真であるがゆえに、時々鋭く真理を言い当てているようでもあり、知らず知らず常識やこだわりに囚われてしまっていた読者にも、一歩“うしろに”進んで考えることを促してくれるのです。

また、コミックスでは、インドの精密画を思わせるさくらももこさんの扉絵(※各回のタイトルに使用されている絵)が、モノクロであるのが惜しいほどに魅力的です。ぜひ味わってみてください。



© M.S

おうちで哲学対話

## 『親子で哲学対話』

10分からはじめる「本質を考える」レッスン

苫野 一徳・著  
出版社：大和書房  
ISBN：978-4-479-39430-3

気軽におうちなどで哲学対話をやってみたい方向けの本です。著者は毎晩寝る前にお子さんと二人で対話をします。(著者は「宝物のような時間」と書いています)

『「かわいい」ってどういうこと？「大人」ってどんな人？「幸せ」って何？』。お子さんが生活の中で疑問に思う事を、語り合ったやり取りが紹介されているのですが、「これなら自分もやってみたいな」と思わせてくれます。本質について考える体験が出来るのに加え、自分の「もやもや」が整理されて、心が軽くなる効果もあるようです。もちろん親子関係も良くなりますよね！

考えるコツ

外山さんの本は、著者の今までの著作の中から、考えるためのコツを短く引用掲載したもの。細谷さんの本は、世にあふれる膨大な情報から適切なものを見極め「自分の頭で考えて意思決定する」ための「頭の柔軟性」を獲得するための視点が語られます。私たちが考え始めたときに役立つ二冊の本です。

## 『やわらかい頭の作り方』

身の回りの見えない構造を解明する  
細谷 功・文  
ヨシタケ シンスケ・絵  
出版社：筑摩書房（ちくま文庫・刊）  
ISBN：978-4-480-43918-5  
・単行本が中央図書館に蔵書があります



## 『歩き旅の愉しみ』

風景との対話、自己との対話  
ダヴィッド・ル・ブルトン・著  
広野 和美・訳  
出版社：草思社  
ISBN：978-4-7942-2591-7



おまけ（番外編）

## 『散歩哲学』

—よく歩き、よく考える—  
島田 雅彦・著  
出版社：早川書房（ハヤカワ新書・刊）  
ISBN：978-4-15-340021-4

これは、おまけの二冊。哲学をする人は、よく散歩をすると言います。(京都には哲学の道もありますね)ブルトンさんの本は、歩くことの素晴らしさを様々に語った本。歩くことは「再生」にもつながるんですね。島田さんの本は「お酒の飲み歩き」も含めて。(どちらかというとそっちの方が強いでしょうか・・・すみません・・・)



## 『こうやって、考える。』

外山 滋比古・著  
出版社：PHP研究所（PHP文庫・刊）  
ISBN：978-4-569-90188-6



・坂田図書館に蔵書があります